

創造から新天新地へ—24 章でたどる神の救済史

1 章 「世界の始まり」

創世記 1 章

1. はじめに

(1) 前回（序章）のアウトライン

- ①聖書 一神の救済史の記録
- ②旧約聖書一神の救済史の進展
- ③新約聖書一神の救済史の成就
- ④新天新地一神の救済史の完成

(2) 今回は「世界の始まり」について考える。

①創 1：1

Gen 1:1 はじめに神が天と地を創造された。

- ②この聖句をどう受け止めるかで、私たちの人生観・世界観・歴史観が決まる。
- ③もし宇宙が偶然の産物であれば、私たちの存在も偶然の産物である。
- ④もし人格を持つ創造主が存在するなら、私たちの存在には明確な目的がある。
- ⑤「私は何者なのか」
- ⑥創 1 章から「救済史の始まり」としての創造を学ぶ。

私たちは、豊かな人生を生きるように造られている。

創世記 1 章で啓示された 4 つの真理を理解すると、そのことが分かる。

I. 神は無から世界を創造された（1 節）。

1. 「初めに」ということば

- (1)「初めに」とは時間の始まりを意味する。
- (2) 時間は永遠の神によって「創造されたもの」である。
- (3) 神は時間の制約の外におられる。

2. 「神」ということば

- (1) 「神」とはヘブル語で「エロヒム」である。
- (2) 複数形であり、威厳・全能を表す。
- (3) 三位一体の神を暗示するとも解釈できる。

3. 「創造された」ということば

- (1)「バーラー」は、神のみが主体となる動詞である。
- (2) 無から有を生み出す行為を指す。

- (3) 哲学や科学では「無から有は生じない」と言われる。
- (4) 聖書は「神のことばによってすべてが存在するようになった」と教える。
- (5) 救済史は神の主体的な働きから始まる。
- (6) 創造は、時・空間・物質の起点である。
- (7) 神は自然の法則の上におられ、自然を支配されるお方である。

4. 適用：私たちの存在は偶然の産物ではなく、神の御心と計画の中にある。

- (1) 真のアイデンティティは、神との関係の中にある。

II. 人は、神のかたちに造られた（26～27 節）。

1. 26 節

Gen 1:26 神は仰せられた。「さあ、人をわれわれのかたちとして、われわれの似姿に造ろう。こうして彼らが、海の魚、空の鳥、家畜、地のすべてのもの、地の上を這うすべてのものを支配するようにしよう。」

2. 「神のかたち」とは、肉体的形状ではない。

- (1) それは、霊性・理性・道徳性・関係性を持つ存在であることを意味する。
- (2) 人は被造物の頂点として造られた。
- (3) 人には、他の被造物に対する管理責任が与えられた。

3. 「かたち」の目的は、神の国の支配に関わる。

- (1) 創造の目的は、神の国の樹立である。
- (2) 男女としての創造は、創造の秩序の一部である。

4. 人は「神の似姿」として尊厳を持ち、いのちは聖なるものとされる。

- (1) いのちの価値は、行いではなく、神に似せて造られたことにある。

5. 適用：自己否定に陥るとき、「神のかたちに造られた」という事実に戻り立つ。

- (1) 他者に対する尊重もこの事実に基づく。

III. 神は造られた世界を「良い」と宣言された（31 節）。

1. 31 節

Gen 1:31 神はご自分が造ったすべてのものを見られた。見よ、それは非常に良かった。夕があり、朝があった。第六日。

2. 創造の各日ごとに「神は見て、それを良しとされた」と繰り返される。

- (1) 「良い」とは機能的完全性、調和、神の意図どおりであることを意味する。
- (2) 世界は初めから墮落していたのではなく、「非常に良い」状態で始まった。
- (3) 後に罪が入り、死と破壊がもたらされるが、神の最初の御心は祝福と調和に満ちていた。

3. 適用：現代の世界には苦しみや不条理があるが、それに打ち勝つ秘訣がある。

- (1) 神の創造は本来「良い」ものであったことを知る。
- (2) やがて来る「新天新地」への希望を確認する。

IV. 天地創造の目的は、神の国の臣民を造り出すことにあった。

1. 最初に創造されたのが、天使たちである。

- (1) 天使は霊的存在であり、知性を有する（マタ 22：30、ヘブ 1：13～14）。
- (2) コミュニケーション能力が与えられている。
- (3) 天に住むように創造されたが、地に下ることも許された。
- (4) 天使たちの間には、権威や能力に関する序列が存在する。
- (5) 天使の数についての明確な啓示はないが、ヒントになる聖句はある。
 - ①ダニ 7：10 幾千、幾万
 - ②ヘブ 12：22 無数
 - ③黙 5：11 万の数万倍、千の数千倍

2. 次に、神の国の臣民として創造されたのが、人間である。

- (1) 神の代理人としての役割が与えられた。
 - ①時代劇によく登場する役職に、「代官」というものがある。
 - ②代官とは、主君（領主）の代理人として領地に派遣され、その地の管理事務を司る者のことである。
 - ③代官には、主君に対する説明責任がある。
- (2) 神が人間を創造したのは、地球に代理人を置き、管理させるため。
 - ①当然のことながら、人間には神への説明責任が伴う。
 - ②神が代理人を通して地上を管理する統治形態を、神政政治と呼ぶ。
- (3) 重要な聖句
 - ①創 2：7

Gen 2:7 神である【主】は、その大地のちりで人を形造り、その鼻にいのちの息を吹き込まれた。それで人は生きるものとなった。

* 地上の体が与えられたのは、領地をより良く理解するためである。

- ②創 1：26～27

Gen 1:26 神は仰せられた。「さあ、人をわれわれのかたちとして、われわれの似姿に造ろう。こうして彼らが、海の魚、空の鳥、家畜、地のすべてのもの、地の上を這うすべてのものを支配するようにしよう。」

Gen 1:27 神は人をご自身のかたちとして創造された。神のかたちとして人を創造し、男と女に彼らを創造された。

* 「神のかたち」に創造されたのは神とのコミュニケーションのため。

3. 適用：人間の創造によって、神の国を設立するための神の御業は完了した。

(1) 人生の目的は、神の国設立という壮大な計画に参加することである。

今日の信者への適用

1. 創造の事実は、私たちに「人生の意味」を与える。

(1) 私たちは偶然の産物ではない。

(2) 私たちは神の意図の中に生かされている。

2. 人の尊厳は、神のかたちに造られたことに基づく。

(1) それゆえ、自分を卑しめることも、他者を軽んじることも、誤りである。

3. 被造物世界の価値は、神が「良い」と宣言されたことに基づく。

(1) それゆえ、自然環境の管理や倫理的生活は信仰表現である。

4. 創造の神は、墮落した世界を救うために御子イエス・キリストを遣わされた。

(1) 救済史は創造から始まり、贖いへ、そして新天新地へと進む。

(2) 私たちはその大きな物語の中に生かされている。